

原油市場展望

2022年2月

 株式会社 日本総合研究所

調査部 マクロ経済研究センター

<https://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

◆本資料は2022年2月3日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。

◆ご照会先：調査部 副主任研究員 松田健太郎 (Tel:080-4176-4439 Mail:matsuda.kentaro@jri.co.jp)

◆日本総研・調査部の「経済・政策情報メールマガジン」は下記URLから登録できます(右側QRコードからもアクセスできます)。新着レポートの概要のほか、最新の経済指標・イベントなどに対するコメントや研究員のコラムなどを随時お届け致します。

<https://www.jri.co.jp/company/business/research/mailmagazine/form/>

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

<メルマガ> <Twitter>



原油価格見通し：高値圏での推移が持続

原油

◆現状：80ドル台後半へ上昇

1月のWTI原油先物価格は、中旬にかけて、①米原油在庫が減少したこと、②IEAがオミクロン株のエネルギー需要への影響は軽微であるとの見方を示したこと、③フーシ派によるUAEの生産施設への攻撃やトルコ・イラク間のパイプライン爆発により供給障害への懸念が高まったこと、などを背景に80ドル台後半へ上昇。

その後は、欧米株価下落に伴いリスク回避の動きが強まり、一時80ドル台前半へ弱含んだものの、月末にかけては、ウクライナにおける軍事衝突懸念が広がり、再び80ドル台後半へ反発。

◆投機筋の買い越し幅は拡大へ

投機筋の原油先物買い越し幅は、1月入り以降、原油需給のひっ迫感や地政学リスクに対する懸念が高まったことを受けて、2021年11月以来の水準まで拡大。

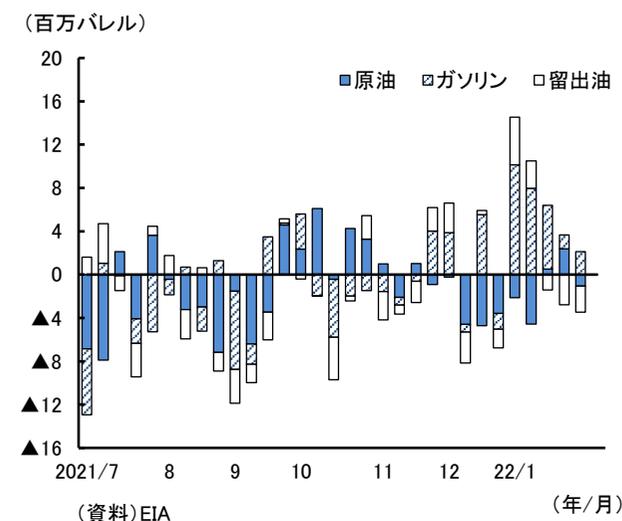
◆見通し：高値圏での推移

先行きを展望すると、原油価格は現行水準を中心とした高値圏での推移が続く見込み。世界的な景気回復が続くなか、原油需要は堅調に推移。一方、供給面でもウクライナ情勢の緊迫化や中東情勢の悪化などの地政学リスクの高まり、OPECの生産下振れなど不透明感が根強く、原油価格には上昇圧力がかかりやすい地合いが続く見通し。

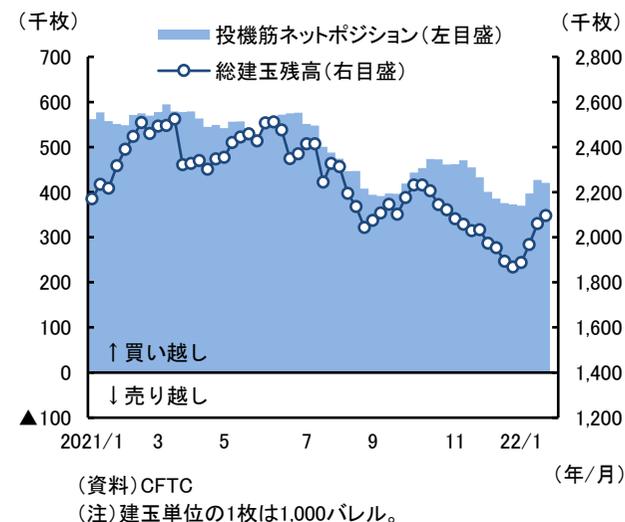
原油価格と株価・為替レート



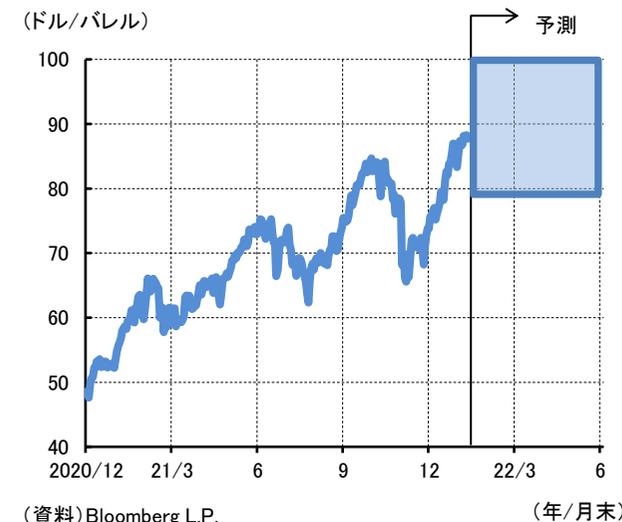
米国の原油・石油製品在庫(前週差)



WTI原油先物ポジション



WTI原油先物価格見通し



トピック：原油供給を巡る不透明感が増大

◆原油需給はタイトな状況が持続

原油市場では、需給のひっ迫感が解消されない状況が持続。

世界的に新型コロナのオミクロン株の感染拡大が続いているものの、厳格な活動制限を導入する国に限られるなか、原油需要は概ねコロナ禍前の水準へ回復。

一方、原油供給の増加も続いており、需給バランスは21年の大幅な需要超過が解消されたとみられるものの、在庫には不足感。OECD加盟国の原油・石油製品在庫は過去5年平均を大きく下回る水準まで減少。

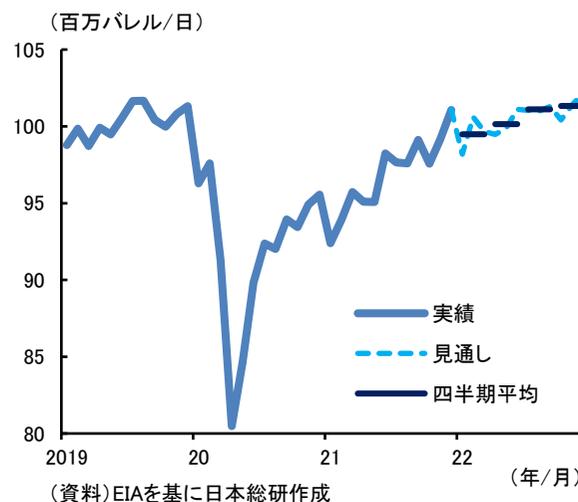
◆供給懸念から上昇圧力

当面を展望しても、以下2つの原油供給を巡る不透明感により原油価格は上振れしやすい地合いが続く公算大。

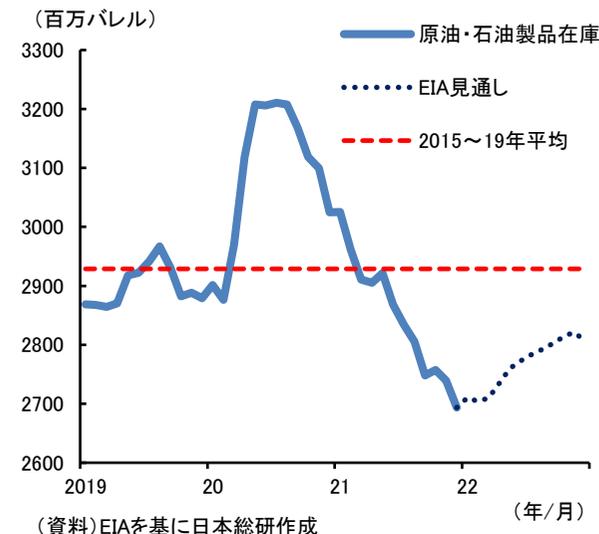
第1に、地政学リスクに対する警戒。足元では、世界の原油生産の約1割を占めるロシアがウクライナに侵攻するリスクが高まっているほか、イエメンのフーシ派によるUAEの生産施設への攻撃など、中東産油国を巡る情勢が悪化。いずれも短期的な収束が見込みにくく、偶発的な供給下振れリスクが意識されやすい状況に。

第2に、産油国の供給余力を巡る懸念。OPECプラスは2月会合で日量40万バレルの増産を決定し、減産幅縮小の方針を維持しているものの、21年央以降OPECの生産量は目標を下回って推移。減産遵守率の低かった国による追加の減産分を含んでいるとみられるものの、一部の産油国で、生産施設のメンテナンス不足や新規の開発投資の抑制などから、供給余力自体が低下している可能性。

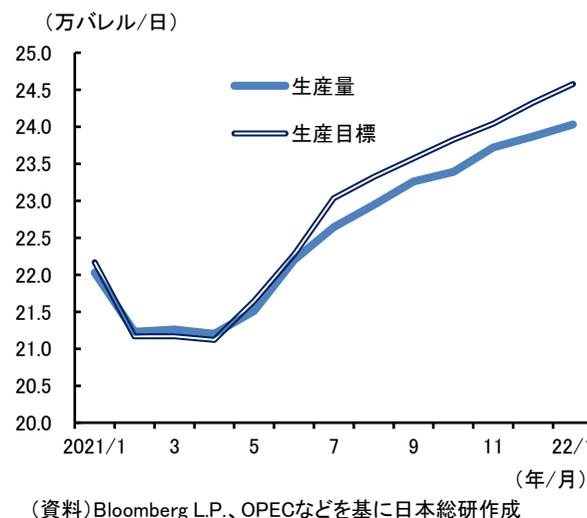
世界の原油需要実績と見通し



OECD加盟国の原油・石油製品在庫



OPECの原油生産目標と実績



石油・ガスの上流投資額

